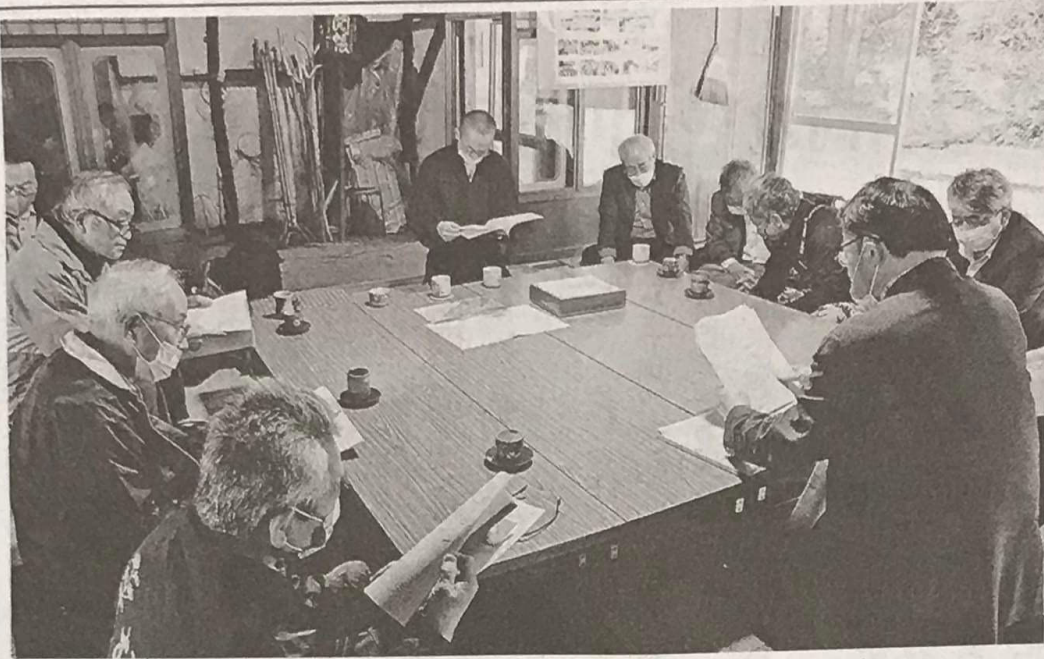


関・暁堂寺

文化遺産として価値高く



県建築士会は関市肥田瀬の暁堂寺を調査し、寺で地域住民に向けて報告会を開いた。

調査は県内で未登録の文化財や建造物を発掘し、その保存や活用に協力する「ぎふヘリテージマネージャー」の育成講習会の一環。同会は二〇二二年度から育成を始め、一期生のグループが担った。

暁堂寺は平安時代後期の創建とされ、「聖観世音菩薩立像」(市重要文化財)を安置する。昨年九月の台風で寺の木が倒れ、本堂の屋根が損傷したことがきっかけで調査した。建築士八人が昨年十一月

調査結果の報告を受ける地域住民ら＝関市肥田瀬の暁堂寺で

県建築士会 調査し住民説明会

今年三月に計三回実施した。

報告会では、建設年代や特徴のほか、作成した図面について一期生も説明した。また、屋根の倒木被害の詳細や、計画的な修繕が必要な箇所も示した。檀家がない中、住民らが守ってきたことや周囲の自然に溶け込んだ環境にあることから、本堂だけでなく環境や歴史を含め総合的に文化遺産として価値が高いと評価した。

住職の高橋定佑さん(三)は「地元の方とずっと守ってきた場所なので、土地や歴史的背景を含めて評価していただけてうれしい」と話した。

(金田侑香璃)